

えん どう まもる

遠藤守レポート

都議会公明党: 新宿区西新宿 2-8-1 TEL: 5320-7250 / FAX: 5388-1787 <http://endomamoru.com> お気軽にご意見・ご要望をお寄せください。

## 3度目の「一般質問」に登壇

定例都議会の一般質問が去る12月10日行われ、遠藤守が登壇しました(当選後3度目)。以下、質疑の概要を報告いたします。

### 安全・安心の出産めざし

#### ○妊婦検診の充実を後押し○

周産期救急医療の充実は喫緊の課題ですが、一方で、ハイリスク出産を防ぐため、妊婦さん自身による妊娠中の健康管理が極めて重要です。そこで、現在区市町村が行っている妊婦検診の受診促進等に向けた取り組みを都として支援すべきと訴えました。福祉保健局長は「区市町村の独自の取り組みを支援する」と答え、新年度から区市町村への財政支援が始まる予定です。

### 医師の、がん緩和ケア研修

#### ○都が初めて重点計画示す○

遠藤守のライフワークである、がん問題については、都のがん対策の柱の一つとなっている「医師の緩和ケア研修」について質問。

緩和ケアは、がんによる身体的な苦痛のみならず心理的・社会的な苦痛を和らげるものであり、がん治療の早期から重要な役割を果たすものです。しかし、日本では(無論、東京でも!)この緩和ケアを学んだ医療従事者が少なく、早期の研修実施が待たれていました。ただ、都内には、がんの診療と関係の深い内科を標榜する医師だけでも1万2千人

もいることから、「対象を絞って、必要度の高いところから重点的かつ計画的に進めるべき」と提案しました。

これに対し福祉保健局長は「(都のがん医療の)拠点病院において、化学療法や放射線療法に携わる医師、在宅医療を行う診療所の医師に対して重点的に行う」と述べ、医師研修の具体的道筋を、初めて明らかにしました。

### 文化財が新たな観光資源に

都民共通の財産である文化財の保存・活用が、都庁内の、いわゆる「縦割り行政」の影響を受け低調なことから、知事直属機関である「知事本局」が総合調整機能を発揮すべきと主張しました。知事本局長は、組織横断的な会議を設置するとともに、都のマスタープランである「10年後の東京(実行プログラム)」に、新たに、観光資源としての文化財を位置付ける意向を示しました。

### 大森東の護岸整備 都区本格協議へ

大田区大森東地区の平和島・海老取両運河沿いの、いわゆる港南4水門は、耐震上問題がある上、水門によって護岸の遊歩道が各所で分断されていることから、水門の「存続」「廃止」について早急に結論を出し、一刻も早く恒久的な高潮対策を打つように迫りました。

これに対し港湾局長は、現在水門の内側に係留中の小型船への対応を含め、地元大田区との協議を本格化する考えを強調しました。